

閉会中の委員会活動

総務企画委員会

常陸太田県税事務所、日本原子力研究所東海研究所

県税の確保対策と収入の状況を調査

常陸太田県税事務所において、県税の確保対策と収入の状況について説明を受けました。

特別滞納整理として、全所体制での滞納整理や休日滞納整理を実施するほか、収入未済額に占める割合の多い個人県民税の確保策として、市町村と共同で滞納整理に努めるなど、県税の確保に向けた取り組みがなされています。

平成14年度の県税収入については、15年4月末現在では13年度を下回り、特に法人二税の減収が大きいとの説明がありました。

委員からは、経済が回復傾向にあるといわれる中での景況感などについて質問がありました。

また、日本原子力研究所東海研究所において、大強度陽子加速器計画の概要と研究炉について説明を受けました。

大強度陽子加速器計画は、中性子などの粒子を利用して原子や分子の世界を見ることによって、難病治療薬の開発や、環境に配慮した技術の開発などさまざまな分野の研究を飛躍的に発展させる計画であり、平成19年度の施設稼働が予定されています。

委員からは、医療分野への活用などについて質問がありました。



日本原子力研究所東海研究所で研究炉の説明を受ける

環境商工委員会

水郷筑波国定公園高須園地、神栖町木崎地区、三菱化学(株)鹿島事業所

飲用水のヒ素汚染状況などを調査



展望台で自然公園大会会場地を見ながら説明を受ける(霞ヶ浦ふれあいランド虹の塔)

はじめに、第45回自然公園大会の式典会場である水郷筑波国定公園の高須園地(玉造町高須)の開催準備状況を調査し、概要説明を受けました。自然公園大会は、環境省の「自然に親しむ運動」の中心行事で、自然と私たちの関係について考え、自然を守り、人と自然との豊かなふれあいを推進することを目的に開かれるもので、玉造町と霞ヶ浦町を会場に7月23日、24日の2日間にわたり開催され、自然公園関係功労者表彰などが行われます。

次に、飲用水から高濃度のヒ素が検出されている問題で、神栖町木崎地区を調査しました。委員からは、神栖町の水道普及率が低い背景と井戸水から上水道への転換促進策について質問がありました。県は、この地区は、地下水が出やすく井戸利用が多い状況にあり、今後は、水道敷設の補助制度の活用などで上水道への転換促進を図りたいと答えました。

最後に、三菱化学(株)鹿島事業所(神栖町東和田)を訪れ、「鹿島経済特区」認定による規制緩和の内容と、経済効果などについて説明を受けました。

保健福祉委員会

(株)日立製作所日立総合病院、(社福)愛正会

身体障害者療護施設などの現場を調査

難治性がんの高度専門的診断や治療を目的として、平成15年4月に「地域がんセンター」を開設した(株)日立製作所日立総合病院を訪れ、事業概要などの説明を受けました。

委員からは、終末期ケアの病床の稼働状況について質問があり、現在のところ希望者はいないが、医師、看護師、薬剤師等で終末期緩和ケアチームを構成し、個別に患者の対応ができるような体制を整えているとの答えがありました。そのほか、平成16年度導入予定のPET撮影装置の効果などの質問がありました。

次に、高萩市の(社福)愛正会を訪れ、「身体障害者療護施設愛正園」、「重症心身障害児施設水方苑」などの概要説明を受けました。

愛正園では、「個人の尊重」と「選択の自由」を基本理念とし、

プライバシー完全保護のために全個室化されています。

委員からは、個室にすることによる不安はなかったのかとの質問があり、閉じこもりが助長されるのではないかと心配があったが、自分の居所が確立されることにより、外に出たくなる気持ちが現れ、閉じこもりが少なくなってきたとの答えがありました。



身体障害者療護施設愛正園の運営状況について説明を受ける